

テレビ静岡では番組の適正化を諮るための審議機関「番組審議会」を設けています。

このページでは番組審議会の議事の概要をお知らせしています。現在、テレビ静岡では県内在住の8名の方に審議委員をお願いしており、毎月1回（2月、8月は休会）番組について、ご意見を伺い、今後の番組制作の参考にさせていただいています。

テレビ静岡 2021年7月度 番組審議会概要

2021年7月8日（木）

14時00分～

テレビ静岡本社 4階 会議室

— 出席委員 —

高木 正和(委員長) 戸崎 文葉(副委員長) 石田 美枝子 木村 精治
上柳 正仁 飯野 勝己 松本 恵司 山本 正博(欠席)

— 議 題 —

番組名 「希望のクラッチ ～切断障がい者 そして 家族～」

放送日時 2021年5月22日（土）16時00分～16時55分

制作著作 テレビ静岡

— 番組内容 —

25歳の時に交通事故で右足を切断した焼津市の男性（45）。「息子とサッカーする」という夢を奪われた彼の心は荒み、生活も一変した。いら立ちを長男にぶつける男性。妻は、「このままでは夫も息子もだめになる」と、夫にアンプティサッカーを勧めた。

「クラッチ」と呼ばれる杖を支えにプレーするアンプティサッカー。ここで彼は、仲間と出会い、「生きがい」を取り戻していく。

義足を脱ぎ捨て、ありのままの自分でいられる爽快感。障がい者になったからこそわかる幸せと感謝がここにはあった。父の復活を信じ、支えてきた息子、そして家族。そこには、いつもサッカーがあった。

— 審議概要 —

◎障がい者のスポーツを取り上げたにとどまらない、主人公と家族の心情が描き出され

ていた。

- ◎このようなテーマの番組に見られがちな“定番”“定型”的な感じを受けなかった。主人公の若杉さんの人物の力が大きかったと思う。強いリアリティーを感じさせた。
- ◎6年余りに及ぶ長期にわたって家族の中に入り込んで撮影し続け、かなりプライベートな感情まで赤裸々に記録している取材力に驚いた。
- ◎主人公だけでなく、長男が家庭内暴力に近い状況から、母、姉妹、監督などの思いやりの中で成長していく姿に心を打たれた。
- ◎サブタイトルの「切断障がい者 そして 家族」の通り、若杉さんが障害を乗り越えてというだけではない、家族の部分が描かれていた。
- ◎チームの選手たちが競技を続けるために自らの苦難に向き合う姿も描かれ、それぞれが小さな人間ドラマのようだった。彼らの姿からスポーツの意味と力を感じた。
- ◎オリンピックの開催に世論が揺らぐ中、スポーツの持つ意味を教えてくれる番組だった。障害の有無に関係なく、自分の「居場所」のために何かをしようとするすべての人に思いをさせた番組だった。
- ◎ナレーションで語りすぎず、登場人物がしっかりと本当の心情を話していた。
- ◎アンパティサッカーの競技としてのすごさや魅力がいまひとつ伝わってこなかった。
- ◎時系列がわからなくなるところがあった。

以上、制作部門にフィードバックし、今後の番組作りの参考とさせていただきます。

次回の番組審議会は2021年9月9日（木）の予定です。